



海辺・川辺調査レポート

■ 名 前 (ふりがな)	風岡 歩
■ グループ名	
■ 学校名	宍道中学校
■ 学 年	中学1年
■ 年 齢	13才
■ お手伝いしていただいた方の名前	

■ レポートした場所	島根県宍道町
■ レポートの題名	宍道湖レポート
■ 内 容	<p>ここは、島根県の東部に位置する、日本で七番目に大きい湖、宍道湖です。ここでは、宍道湖七珍（ジミ、スギ、モロギ、ウギ、アマギ、シウ、コイ）と呼ばれる魚や、貝がとれます。なかでも、大和ジミは全国的にも有名です。しかし、その数は、年々減少しつつあります。その理由として、水質の低下がおもな原因とされています。</p> <p>この宍道湖も、昔の資料を調べてみると、四、五年前までは、遊泳ができるほど、きれいな湖だったそうです。学校にプールなどなかった、昭和15年から30年までは、宍道町では、学校指定の水泳場だったそうです。いつも、子ども達は、泳いだり、しじみ取りや、魚つりをして遊んでいたということです。</p> <p>現在の宍道湖は、人間の利便性を優先され、干拓がすすみ、周囲をコンクリートの護岸で固められてしまいました。去年、B&G 宍道主催のイベントで、父が「宍道湖横断チャレンジ」に参加しました。実際に水質を体感した、父の話では、「宍道湖の水は汚れていて、先が全然見えなかった。」と言っていました。私たちの大切な湖が、そんなに汚れているなんて、とてもショックでした。</p> <p>私は宍道湖の景色が大好きです。冬には鴨などの渡り鳥がたくさんやってきます。しかし、私が幼い頃から目にしている宍道湖では、今、魚の大量死などが、話題にのぼることも珍しくありません。このままでは、将来もっとひどくなると思います。私たちは、これから何をしたらいいのでしょうか。</p> <p>調べていくうちに、きれいな湖によみがえらせようと努力している人</p>

たちがいることを知りました。NPO 法人で、護岸工事によって姿を消してしまったヨシ（葦）を再生させるプロジェクトだそうです。ヨシには、水を浄化させる機能や、魚たちのすみかをつくる働きがあります。そこで、平成14年4月から『竹ポットによるヨシ再生プロジェクト』を実施しているそうです。この広い突道湖のまわりに、たくさんのヨシを植栽するのは、とても大変なことだと思います。そこでぜひ多くの人たちに、このプロジェクトに関心をもってもらいたいです。私も参加してみたいと思います。

今私たちにできることは、

- ・ 生活排水を減らす
- ・ 清掃活動に積極的に参加する
- ・ 自然についてもっと理解する

など、いろいろありますが、やはり一番大切なのは、環境を守るという、一人ひとりの心がけだと思います。自分だけならとか、少しだけならという考えはやめて、未来のためにきれいな自然を残していけたらと思います。

■ 写 真 名 前 風 岡 歩

